

Edition

Living the Dream

「夢」の実現に向かって頑張っている方を応援します。

あなたの叶えたい夢や地域の夢などを編集部にお聞かせ下さい。選考の上、Editionに掲載させて頂きます。ぜひ、あなたの「夢」を叶えるお手伝いをさせていただきます!

【応募条件】

あなたが叶えたい「夢」であること。

【夢の例】

- ・プロのダンサーを目指している。
- ・ソムリエを目指している。
- ・ママさんバレーボールで優勝したい。
- ・お祭りや地域を元気にしたい。

【応募方法】

株式会社宅配広告社のホームページより、お問い合わせフォームに必要事項を明記の上、「お問合せ内容」欄にあなたの夢、活動などをご記入下さい。採用された方、または採用にはごちからご連絡させて頂きます。



TAKE
FREE

ご自由
にお持ち帰
り下さい。

広告主募集

フリーペーパーEditionに
広告を掲載しませんか?
03-5328-1700



Instagram

edition_freepaper
素敵な写真が沢山見られます!



魂

9

夢の実現に向かって頑張っている方を応援するプロジェクト「Living the dream」企画の第3回目のインタビューは、和太鼓チーム「暁」の代表 TAKA さんです。「暁」はメンバー全員がコンテストで優勝・受賞の経歴を持つ実力派の和太鼓集団。また全員が教員免許を持ち、指導者として和太鼓を通じた青少年育成にも力を入れています。作曲から舞台演出まですべてを手がけるTAKAさんに、「暁」の活動と和太鼓への想いをうかがいました。



和太鼓 暁

鷹

TAKA

和太鼓 暁 代表
和太鼓 打楽 主宰
書道家

1991年2月生まれ。広島県生まれ中野区育ち。7歳より和太鼓を始め、17歳で独立。2013年に和太鼓集団「暁」を立ち上げる。現在「暁」の活動の他、中野区を拠点とした和太鼓教室「打楽」を主宰し、高校では非常勤講師として書道を教えている。主な受賞歴は、2015年岡谷太鼓まつり世界和太鼓打ち比べコンテスト大太鼓世界一・文部科学大臣賞。2019年O・TA・I・KO響大太鼓「明神」一本打ちコンテスト最優秀賞・福井県知事賞。2019年大太鼓一本打ち全国大会最優秀賞。

Living the DREAM

Q. 和太鼓との出会いについて教えてください。

TAKAさん：僕が小学校一年生の時、お祭りで和太鼓の演奏を見た母が「やってみよう」と言い出したのが最初のきっかけです。うちの両親は「習い事は家族でできるものを作る」というポリシーがあったようで、半ば強制的に地元の太鼓教室に連れて行かれて(笑)、両親と僕と弟の4人で入会しました。最初は訳もわからず、見よう見真似で打ったのを覚えています。月に3回のお稽古は家族全員でやる楽しさがありました。慣れてくると、みんなとの一体感が心地良くなりました。僕たちが入ったチームは子供からお年寄りまで性別も年齢も様々でしたが、たまに「ドン！」ってみんなのリズムが合う瞬間があるんです。この時のスカッとする感じが、子供心にもたまらなかったです。

Q. 和太鼓のどんなところに魅了されたのですか？

TAKAさん：音ですね。太鼓は個体差があって、一つとして同じ音がないところに魅力を感じます。鼓面は牛の皮でできていますが、新品の皮と古い皮、使われている皮の部位によって音が全然違いますし、湿度の影響で雨の日と晴れの日でも違う。こんな楽器は他にないと思います。そして、僕は常々、一言にもものすごく歴史が詰まっていると感じています。和太鼓は、胴の部分はケヤキの木、鼓面は牛の皮とすべて自然の産物でできています。また古代から神様への祈りや感謝などの祭りごとで使われ、人々の暮らしと密に関わってきました。今日演奏した大太鼓の木はおそらく樹齢100年くらいのもですが、打った瞬間に、そこにある自然の歴史や昔の人の魂と繋がるような感覚になります。一言に秘められた歴史を多くの人に伝えたいですし、僕らの入れた魂が次の世代に受け継がれていって欲しい、自

分も歴史の一部になりたいという思いがあります。

Q. 「暁」が生まれたきっかけを教えてください。

TAKAさん：「暁」は2013年に立ち上げました。特長は一人一人が演奏家であり、それぞれでも演奏できて、それがチームになった時により魅力的な演奏ができるということです。誕生のきっかけは、僕が17歳の時、10年所属していた太鼓チームに物足りなさを感じ、指導者の先生に「もっとこうしたい」と意見を言ってしまったんです。そして「ここは私のチームなの。嫌なら辞めなさい」と言われてしまい辞めることに(笑)。でもそれがターニングポイントになりました。自分がやりたいことをやるには自分のチームを作るしかない。最初は小・中学生を含めたメンバーで始めましたが、価値観の違いなどがありメンバーチェンジし、その後自分が教える太鼓教室にいた子と高校を卒業したばかりの弟の3人で始めたのが「暁」です。「暁」は「夜明け」という意味で「和太鼓界に新たな夜明けを」というのがコンセプトです。後にその演奏を見て入ってくれたのが近藤と大塚です。

Q. 現在どういった活動をしているのですか？

TAKAさん：和太鼓や和楽器を多くの人に知ってもらうため、その演奏や指導などの普及活動と、青少年育成の面から小学校でのワークショップや保育園での演奏を行っています。

Q. チームで演奏することの魅力とは？

TAKAさん：チームだからこそ出せる音があるので、一人でやるよりも表現の幅をぐんと広げることができると。また、「ドン！」と全員の音が合った時の爽快感、達成感、気持ち良さは言葉になりません。自分たちだけでなくお客様もそう感じてくださっているのがわかります。一方で難しいこともたくさんあります。音階がないので、一発ずれてしまうと僕が表現したいものにならない。その部分で、僕と彼らの意識の差をいかに近づけるかというところは課題だと思います。

Q. 篠笛といった和楽器や、書道、生花などのジャンルとコラボレーションをするようになったのはなぜですか？

TAKAさん：結成から5年が経ちこれからどうしたいか自問自答した時に、日本人が忘れていた日本、また外国人が感じる日本というものを表現したいとの思いが浮かびました。小学校6年生から大学まで書道をやっていたので、まずは書道のパフォーマンスを取り入れてみよう。他のジャンルについては、大学時代いろんな舞台や美術館の古典作品を観たこと、授業で生花や絵画、工作などで創作する経験をしたことが大きく影響しています。日本の芸術の素晴らしさを実感し、表現者としてそれを人に伝えたいと思い、様々なジャンルとコラボレーションすることにしました。

Q. 作曲はすべて TAKA さんがされているそうですが、何からインスピレーションを得るのですか？

TAKAさん：作曲する方法は二通りあります。何かを見聞きしたことをリズムに起こし、それを後から構築する方法が一つ。日常の音を聞いて浮かぶこともあります。もう一つは、先にタイトルを決めてしまうやり方です。コンサートのタイトルを決めたら、それに合わせて構築していくんです。あと、寝ている時に夢の中でメロディが流れていて、ぼっと起きて「忘れないように」と笛を吹いて書き留めたことが2回ほどあります(笑)。

Q. TAKA さんにとって和太鼓とは？

TAKAさん：幸せを選ぶもの、です。太鼓を始めて20年になりますが、やっとわかりました。昨年20周年コンサートのお客様をお見送りした時、素晴らしい。元気もらったとみなさん喜んでくださり、感動したと涙する方もいました。その時ふと感じました。笑顔、元気、感動の究極って幸せなんじゃないかと。太鼓には無限の可能性があります。これからは、もっともっと多くの人に幸せを届けられるよう精進したいと思います。

(※このインタビューは2019年10月に行いました。)

鷹

TAKA



近藤玲未

REMI KONDO



大塚菜生

NAO OTSUKA



塚本隼也

JUNYA TSUKAMOTO



Edition

1月号 Living the Dream 既刊数 冊 2020年1月発行 発行人/佐藤大輔 発行/株式会社 和太鼓 社 〒164-0013 東京都中央区新富町4-21-4 和太鼓天鼓スタジオ1階 TEL.03-5328-1700 FAX.03-5328-1715 Contact/editions@akatsuki.co.jp

和太鼓 社

Editor's note

魂が揺さぶられるような力強い響き。4人のパワーのぶつかり合いは圧巻の迫力でした。そして、和太鼓と篠笛の競演。日本の古典芸能の素晴らしさを身にしみて感じたひとときでもありました。“日本”を世に知らしめる伝道師として、「暁」がこの先どんなパフォーマンスを見せてくれるのか、とても楽しみにます。

Staff

Sales 新岡大
Editor and Writer 鈴木ハルカ
Photographers H.SUGI (cover photo)
石村俊太
中村一月

Information



TAKA Official Website
<https://www.wadaikosyodotaka.com/>



LINE
ID:和太鼓暁



Instagram
wadaiko_syodotaka

